

# いの思ひ出

都留文科大学英文学科助教授

一ノ瀬 和夫

大学から在外研究の機会を与えられ、ニューヨークでアメリカの演劇の勉強をしたのは、もう四年も前のことである。実際にいろいろな刺激を受け、様々な思い出が今でも鮮やかに脳裏に焼き付いているが、その中でも特に忘れられない体験が一つある。

ニューヨークは、何事においてもテンポの早い「生き馬の目を抜く」街である。ニューヨークっ子は、喋るのも早ければ歩くのも速いとよく言われる。道路はほとんどが一方通行になっているが、それでも中心街の渋滞はかなりのもので、クラクションの谷間にタクシーがアクロバットのような運転で駆け抜けしていくといった光景がよく見られる。



ある日、そんな街中を行くバスに乗っていたとき、ある停留所で車椅子の女性がバスを待っていたことがあった。これは日本でもよくある光景である。しかしそのとき、私は「あれ?」と思った。その女性に連れがいなかつたのである。私が日本で体験していたのは、介添人が付き添い、車椅子は折り畳み、本人は介添人が背負うか肩を貸すかして乗り込んでくる姿であった。

いったいどうするのだろう、運転手か誰かが手伝うんだろうかと思つて見ていると、車を止めた運転手が座席を立って車内の中程にある降車

口まで行き、まずその近くの座席を折り畳み、それからドアを開けた。次にドアの脇にある操作盤のようなものの蓋を開け、一つのボタンを押すと、降車口の階段が動いて一枚の板のようになつた。後はフォークリフトの要領である。歩道と同じ高さまで下げられた板の上に車椅子が乗り、固定されると、今度はそのまま板が上昇する。そして、座席を折り畳んだスペースに車椅子を固定すると完了である。その間、少し時間がかかつたが、私が見た限り、あのせつかちなニューヨークの乗客は誰一人としていやな顔ひとつせず、さも当然といった様子で作業を見守つていた。また停車し続けるバスに、苛立つたクラクションを浴びせる車もなかつた。

私は、車椅子の人が他人の手を借りずには、実に簡単にバスに乗り降りできるその装置の便利さにももちろん感心したが、それ以上に、そういうことを可能にしている社会の姿勢というものを思はざるを得なかつた。

街は、そして社会は、健常者のみを基準にして作られているのではない、身体に障害を持つ人も、「権利」として市民生活が保証されるべきものであろう。それを保証するのが行政の、そして市民の「善意」とか「好意」ではなく「義務」であろう。しかし、その「義務」を果たすためには財政的な裏付けも必要であり、市民レベルの広範な理解も必要であろう。所謂、言うは易し、行うは難しどうしたところがここにはある。だが、何はどうあれ、犯罪都市と言われ、財政赤字を抱え、多民族がひしめきあう街ニューヨークは、この「義務」を果たそうとしている。その姿勢と言おうか志が、強く印象に残ったのである。

この体験をしてから四年。その間、アメリカから聞こえてくるのは、経済不況と社会の荒廃といったニью・スバカリと言つてよかつた。そして湾岸戦争以後は、そういった国内問題を一気に解決しようとするかの如く、強いアメリカといった部分ばかりが強調されているように思われる。しかし私には、あの日の、あのバスの光景こそが我々が見るべきアメリカの姿のような気がしてならない。ちなみに、後で知ったことだが、あのバスは日本製であつたらしい。

## 秋の一日を市文化祭へ 皆さまのおいでをお待ちしています

### 式典の部（文化会館）

開会式 11月2日 午前9時

表彰式 11月4日 午後1時

### 展示部門（文化会館）

11月2・3日 午前9時～午後5時  
11月4日 午前9時～午後4時

菊花展	前庭	ムササビと森を守る会	3階
さつき盆栽展	1階	絵画展	4階
趣味作品展	4階	老人大学作品展	3階
写真展	4階	生涯教育作品展	3階
郵趣展	1階	県福祉展出品作品	3階
俳句作品展	3階	ふるさと展	2階
短歌作品展	3階		
華道展	3階	12月7日・8日	
書道展	4階	編物洋裁作品展	3階



### 歴史探訪（市役所広場）

11月3日 午前9時集合

### 都留市商工会 青空市

文化会館広場

11月3日 午前10時

### 大会部門（文化会館）

舞踊大会	10月13日	午前9時
合唱祭	10月27日	午後1時
俳句大会	11月2日	午後1時
囲碁大会	11月3日	午前9時
茶画会	11月3日	午前10時
映画会	11月4日	午前9時
合同芸能大会	11月10日	午前9時
詩の朗読会	11月24日	午後1時

### （農協会館）

歌謡大会	10月20日	午後12時30分
詩吟大会	10月27日	午前9時